実施手順・記録と集計の読み方

1925年資料・第1系列／現行市販版の公式用紙ではありません

対象者ID：_____ 実施日：_____ 検査者：_____

【位置づけ】原著者の対語課題を実施・記録するための用紙です。

第1系列の有関係・無関係各10対を収録。現行版の基準値・診断に流用しません。

【準備】本用紙、筆記具、経過時間を記録する時計。専用音源や図版は不要です。

静かな室内で机を挟んで対座し、不要な物を除きます。用紙は検査者側に向けます。

本人が聴いて口頭で回答し、検査者が提示・記録・集計します。代理回答はしません。

聞こえ、言語理解、発語、疲労、補聴器の使用を確認し、4ページに記録します。

【説明例：原文の趣旨を現代語化した編集文】

「これから、二つずつ組にした言葉を読みます。組を覚えてください。

あとで最初の言葉を言いますので、組になっていたもう一つの言葉を答えてください。」

【練習】本試行以外の2〜3対で、方法が理解できたか確かめます。

使用例：花―蝶々、家―庭、役者―舞台（原著の有関係第5系列から選択）。

使用した対：_____ 理解確認：可・困難・未確認

【実施】有関係と無関係を別々に実施します。実際の実施順を記録してください。

① 1〜10の対を順に、静かに、明瞭で均等な調子で読みます。

② 全対の提示後、前語だけを1〜10の順に読み、本人に後語を答えてもらいます。

③ 回答をそのまま記録し、正答・忘却・誤った回答を区別します。

④ 反復では同じ系列の提示と再生を行います。原著pp.70 – 71の3回記録例に合わせ、

本用紙には第1〜3回の欄を設けています。反復回数・中断は実施条件に残します。

【採点】右側の後語が正答です。正答数は各条件・各回0〜10、正答率は正答数×10%。

原著例の○＝正答、―＝忘却。誤答は実際の語を残します。反応欄と判定欄を分離しました。

原資料では自己修正、同義語、発音差の細則は示されません。反応の順序を残し、

判断が定まらないものは保留とし、確定値に混ぜません（保留欄は編集上の追加）。

【原資料の限界】提示間隔・回答待機の秒数、全問正答による打切り、追加ヒントの

細則は本章に明記されません。独自の秒数や打切りを「原著の規則」としません。

実際の速度・待機・追加提示を記録。未実施や評価不能を忘却や0点に置き換えません。

本人の負担や意思疎通の問題で継続困難なら中断し、その理由を記録してください。

【編集】旧字体を新字体へ整理。対語・順序は第1系列を保持。記録枠と条件欄を追加。

本用紙に基準値・カットオフ・重症度区分はありません。異常の確定診断には使えません。

出典：三宅鉱一『記憶障碍及び其療法』1925，pp.64 – 71（国立国会図書館・PDM）
https://dl.ndl.go.jp/pid/935304 ／ 再編集：STROKE LAB 2026-11-17

有関係対語｜第1系列・提示と回答記録

1925年資料・第1系列／現行市販版の公式用紙ではありません

対象者ID：_____ 実施日：_____ 検査者：_____

提示：前語＋後語を全10対 → 再生：前語のみ。本人にはこのページを見せません。

正答＝○／忘却＝—／誤答＝実際の語。自己修正は発言順を残してください。

No.	前語	後語・正答	第1回：反応／判定	第2回：反応／判定	第3回：反応／判定
1	人	猿			
2	田舎	田圃			
3	親切	情			
4	医者	病人			
5	手	足			
6	池	河			
7	軍人	戦争			
8	馬車	自動車			
9	勉強	試験			
10	狐	稲荷			

正答数（各0〜10） 第1回：____ 第2回：____ 第3回：____

開始・終了時刻：_____ 反応・自己修正等の詳細は4ページへ。

「田圃」などの語彙の理解も解釈に影響します。実施中に別の語へ変更しません。

出典：三宅鉱一『記憶障碍及び其療法』1925，pp.64 – 71（国立国会図書館・PDM）
https://dl.ndl.go.jp/pid/935304 ／ 再編集：STROKE LAB 2026-11-17

無関係対語｜第1系列・提示と回答記録

1925年資料・第1系列／現行市販版の公式用紙ではありません

対象者ID：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　実施日：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　検査者：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

提示：前語＋後語を全10対 → 再生：前語のみ。本人にはこのページを見せません。

正答＝○／忘却＝―／誤答＝実際の語。自己修正は発言順を残してください。

No.	前語	後語・正答	第1回：反応／判定	第2回：反応／判定	第3回：反応／判定
1	谷	鏡			
2	酒	村			
3	下駄	坊主			
4	忠義	椅子			
5	仕事	冬			
6	娘	石炭			
7	蛙	巡査			
8	柳	電話			
9	行列	空気			
10	書生	袋			

正答数（各0〜10） 第1回：＿＿＿＿　第2回：＿＿＿＿　第3回：＿＿＿＿

開始・終了時刻：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　反応・自己修正等の詳細は4ページへ。

未実施・聞き取り不能・理解困難などは、誤答と分けて理由を残してください。

出典：三宅鉱一『記憶障碍及び其療法』1925，pp.64 – 71（国立国会図書館・PDM）
https://dl.ndl.go.jp/pid/935304 ／ 再編集：STROKE LAB 2026-11-17

集計・実施条件・所見

1925年資料・第1系列／現行市販版の公式用紙ではありません

対象者ID：_____ 実施日：_____ 検査者：_____

集計：各条件を別々に。各回の総項目数は10。6欄を一つの総得点に合算しません。

条件・回	正答数	忘却数	誤答数	保留数	未実施等	正答率
有関係 第1回						
有関係 第2回						
有関係 第3回						
無関係 第1回						
無関係 第2回						
無関係 第3回						

保留・未実施等を含む回は、完全な10項目の確定得点として扱いません。

実施順・回数／中断理由：

提示速度・待機時間／追加提示・ヒントの有無：

聞こえ・補聴器／理解・発語／疲労・使用言語：

誤答・自己修正の詳細（条件・回・番号・発言順）：

所見・生活で別途確認すること：

架空の計算例：正答7・忘却2・誤答1なら7/10＝70%。これだけで正常・異常は判定しません。

出典：三宅鉱一『記憶障碍及び其療法』1925，pp.64 – 71（国立国会図書館・PDM）
https://dl.ndl.go.jp/pid/935304 ／ 再編集：STROKE LAB 2026-11-17